



T O K Y O R O P P O N G I R O T A R Y C L U B

東京六本木ロータリークラブ



『ロータリーは分かちあいの心』

～Rotary Shares～
国際ロータリークラブ会長

発行日 2008年6月30日

No. 40

『一歩一歩進もう』

～Let's Move Forward Step by Step～
東京六本木ロータリークラブ会長

W E E K L Y R E P O R T



平成20年6月16日

卓話『^{いさ}粹の^{しょうたい}正体』

伝統歌舞伎懇話会 会長・江戸勘亭流書道 家元

小山 観翁 様



たまに和服を着ると必ず褒める人がいて粹です
ねとおっしゃる。だけどそれはモードの方へ引
張りすぎて、粹というのはもっと本質的なものじゃ
ないかと思います。

一つの例ですが、若夫婦が婚姻届を出しに役所
へいらした。ところが何故か二人の証人のうち一
人の判がなかったので、窓口のお役人が受け付け
るわけにいきませんと言う。若夫婦が、でも今日
は吉日を選んで来たんですから何とかと言っても
駄目。通りかかった課長補佐が見て、なるほど、
これはちょっとまずいんじゃないでしょうか。で、
しばらく考えて、お客さん、勧めるわけじゃあり
ませんけど地下の売店へ行ってみませんかと言っ
て行ってしまふ。血の巡りのいい夫婦は売店に飛
んでいって三文判を捺して、めでたくOKになった。
私は、この課長補佐のやったことが粹というもの
ではないかと思うんです。最初、判がありません
から受け取れませんときちんと言いながら、「勧
めるわけじゃないけれど下に売店がある」と言う。
誠にすれすれの話。こんなもの実印はいらないん
だから三文判を捺してお出しなさいと言ってしまう
えば、踏み外していることになる。このようにす
れすれを行くけど本道を踏み外さず鮮やかに目的
を遂げるというのが粹。じゃあ窓口の人は野暮か。
野暮って言うと悪いことのようにだけど、その立場
にいる人が手続き不備のまま通してしまえば、本
来の仕事を離れてしまうわけですから、野暮が世
の中の基本です。判断能力、決定権のある人が初
めて行使できる。

もう一つの例。皆様が深夜レストランに行っ
たら仲睦まじげに食事している男女の社員に遭っ
たします。気付かれないように離れたところで食
事して帰る方法もごございますけど、人の上に立つ
身としてあまり適当ではない。それで二人のとこ
ろへ行っ、やあとか何とか挨拶したあと、なる

べく離れたところに座っ
てあげるぐらいはしなきゃ
なりません。さて食事が
終わって皆様方どうなさ
るか。一つは、じゃ失敬
と挨拶して帰るとき、レ
ジで、あそこの分もねっ
て言ってすーっと帰っちゃ
う。もう一つ。「じゃお
先へ失敬。あのね、君た
ちの分も払っておいたから」と言う。二人のム
ードはめちゃくちゃになります。何も言わずにお勘
定を払ってくれた上司に、部下は尊敬もするし感
謝もする。これも粹ですな。もう少し踏み込んで
レジの人が、先ほどの方のお申し付けでお部屋を
用意してございます…。これは粹（行き）過ぎ。

粹という美学が始まったのは徳川八代将軍吉宗
の頃。吉宗は、町民にも武士の儒学のような教育
のテキストが必要だと考えておりました。清の道
徳教本に六諭衍義大意（りくゆえんぎたいい）と
いうのがあり、これを手に入れた吉宗公は、その
うち日本の国民性にあった部分を室鳩巢に編集さ
せ、寺子屋で教えることになりました。この六諭
衍義大意、結構には違いないけれど、まともに遵
守すると肩が凝ってしまう。で町人たちは何とか
これをうまくすり抜けるよう工夫するようになり
ました。粹というのはすれすれのところを行きな
がら本道を踏み外さない、非常に巧妙な生き様だ
と思います。

粹は、誰もが簡単にできるものではありません。
しくじるとただの粹がりになってしまいます。で
すから人の上にお立ちになる方はよく考えて、お
部屋まで用意するんじゃないかと、ちょっとしたと
ころで心遣いをする。そういうものだとお考えあ
そばしては如何かと思うわけでございます。

